

いもこじ

第62号【年3回発行】

令和8年3月1日

日置地区社会教育振興会

〈事務局・編集〉鹿児島教育事務所



日置地区生涯学習推進大会が1月24日（土）、日置市下野建設文化ホール（東市来文化交流センター）で開催され、520人が参加しました。



開会行事では中屋謙治会長（代理 出水副市長）が開会のあいさつを、永山由高日置市長が開催市市長あいさつを述べられました。表彰式では、地区・市の社会教育等に尽力された個人・団体の表彰及び全国・九州・県において受賞された方々の表彰伝達も行われました。

司会は伊集院高校放送部2年生のお二人が担当し、安定感のあるスムーズな進行を見せていました（写真左）。

活動体験・学習活動発表



オカリナ講座【日置市】



フラメンコ「ポニータ」【いちき串木野市】



日置市・多賀町交流事業【日置市】



青少年海外派遣事業【日置市】



吹上高校図書委員会（読み聞かせ）【日置市】

海ノ民話のまちプロジェクトアニメ上映



日置市に伝わる海にまつわる民話がアニメになりました



講演「小さな一歩と、学びの積み立て」 講師：岩本 あいか氏



岩本あいか氏は、日置市吹上町出身で、現在は子育てをしながらテレビ、ラジオ、各種イベントの司会で活躍されています。鹿児島初のアイドルとして活動を始め、アイドル戦国時代と称された芸能界をたくましく、そして軽やかに生きぬいてこられました。常に新しい世界に挑戦する姿勢や、人々に喜びを与える

のために何ができるかを学び続け、その経験をもとに現在の地位を確立されたことを話されました。当日は講演に加え、2曲の歌も披露していただき、参加者は時間が経つのも忘れるほど聴き入っていました。



- ★優良PTA文部科学大臣表彰
- ★湯田小学校PTA（日置市）
- ★日本PTA全国協議会表彰
- 山 寿哉（日置市）
- ★県優良読書クラブ表彰（県読書推進活動賞）
- ★ほけつとラアンタジ（日置市）
- ★県公民館連絡協議会表彰
- ★須田木優二（日置市）
- ★日置地区社会教育振興会表彰
- 勝田 久子 ○おはなしグループCACHIE CACHIE
- 【いちき串木野市】
- 緒山 勇吉
- 宇都 隆雄
- 藤田 和生
- 江平 睦男
- 樋之口 満実
- 東瀬 戸

祝 受賞 おめでとうございます

しかし、その核となる「子ども会」の会員減少は深刻な懸案です。地域で主体的に考え、協働で学ぶ場を失えば、「日置市教育振興計画」が掲げる「心豊かな人づくり」の実現は困難になります。対策として、まずは保護者の負担軽減を優先し、業務のデジタル化や行事のスリム化など柔軟な関わり方を模索します。その上で、当課の資源を公民館講座等と連携させ「生きた学びの場」を提供できれば、教え合い支え合う「循環型の社会教育」へとつながります。今後とも人のつながりを大切に、日置地区に「いもこじの精神」が息づく地域を、共に創っていきたいと考えます。



日和下駄

日常の小さな感動と社会教育の光
日置市教育委員会 入佐 好彦
社会教育課長

日々の忙しさの中でふと立ち止まると、社会教育の本質を教えられる出来事に遭遇します。当課が文化・スポーツ・図書、そして社会教育と多岐にわたる事業を所管しているからこそ、日置市には多様な学びの機会が溢れていると実感します。先日、鹿児島三大行事「妙円寺詣り」に関連する二つの行事に挑む子供たちの姿に深く感動しました。歌を声に出して継承する「暗唱大会」と、約20キロの道を闊歩する「大行進」です。これらはまさに、心身を磨く「ひおき版郷中教育」の体現です。

鹿児島地区子ども会大会、指導者・育成者研修会

11月29日（土）、いちき串木野市いちきアクアホールで開催され、約300人の子ども会員や関係者が参加しました。大会は、川上小学校児童による「川上棒踊」（写真右）で幕を開けました。開会行事では、松下良照会長のあいさつに続き、相良一洋いちき串木野市教育長の祝辞、地区表彰、県・九州の賞状伝達式が行われました。



子ども会活動・体験活動発表



体験発表ではアドベンチャーinこしき島、関ヶ原戦跡踏破隊、そして、十島村の宝島からのオンラインによる発表（写真左）がありました。参加者からは「鹿児島地区である十島村子ども会の発表を知ることができてよかった」との声が聞かれました。また、子ども会の発表は羽島地区子ども会と湊地区子ども会が行い、どの発表も子供が主体的に取り組んでいる様子がよく伝わる、素晴らしい内容でした。

講演



全国子ども会連合会次長の杉浦隆氏（写真左）が「体験活動と安全」と題して講演を行いました。杉浦氏は、「子ども会が『子供たちの真の成長と真の幸福』につながるよびのびと成長できる環境を整えることが大切である。また、常に安全に配慮し、豊かな体験を提供することが重要である」と強調されました。

創作活動



子ども会会員は3グループに分かれ、県立青少年研修センター研修主事の指導と2市のジュニア・リーダークラブの方々の支援を受け、「木の実・木の枝ストラップ」づくりに、互いに協力しながら楽しく取り組みました。



祝
受
賞
お
め
で
な
ご
ど
い
ま
す

- ★九州地区子ども会連絡協議会表彰
- 福岩 宏基（いちき串木野市）
- ★県子ども会育成連絡協議会表彰
- 土橋 子ども会育成会（日置市）
- ★県優良少年少女団体表彰
- ★諏訪之瀬島子ども会（十島村）
- ★地区子ども会育成連絡協議会表彰
- 中区子ども会（日置市）
- 瀬戸内子ども会（日置市）
- 「チェリーブロッサム」ジュニアリーダークラブ（いちき串木野市）
- 照島地区子ども会（いちき串木野市）
- 湊地区子ども会（いちき串木野市）

大会運営スタッフとして「アドベンチャー事業ボランティア」およびジュニア・リーダークラブ「チェスト」や「チェリーブロッサム」の皆さんが力を尽くしてくれました。（写真右）

県PTA活動研究委嘱公開

～いちき串木野市PTA連絡協議会～

12月6日（土）、いちきアクアホールで開催され、約270人の参加があり、神村学園中等部・高等部吹奏楽部の華麗な演奏で幕を開けました。

開会行事では南香織県PTA連合会副会長、坂口崇 開会のあいさつ（坂口所長）
一郎鹿児島教育事務所長が開会のあいさつを、中屋謙治いちき串木野市長が祝辞を述べられました。



神村学園吹奏楽部の演奏

PTA活動発表

9年間で育てる羽島の子ども～小中合同PTA活動の実践を通して～



陣笠、陣羽織で発表する羽島小中のPTA

羽島中学校今年度で閉校 最後の発表

羽島小中合同PTAは、交流の促進と活動の効率化を目指し、研修視察やPTA新聞の発行、資源の再利用などに取り組んでいます。また、黎明祭などを通じて羽島の歴史と伝統を地域全体で継承するための取組についても発表されました。

PTA会員の減少や羽島中の閉校といった課題はあるものの、今後は会員の負担を軽減しつつ教育効果の高い活動を継続していきたいと述べられました。

講演



羽島出身の歌手でMBCタレントのジミー入枝氏（写真左）に「鹿児島発信の芸能・音楽」と題して、講演いただきました。歌手になりたいという夢を抱き続け、憧れのザ・キングトーンズに弟子入りを果たし、歌手として活動している様子、さらにはご自身の6年間のPTA活動についても話されました。その合間に、素敵な歌声も披露していただきました。

グループ協議



「役員のなり手不足」について、7～8人のグループに分かれて各学校の実態や、どのようにして役員のなり手不足を解消できるかを話し合いました。意見としては、役割分担の見直しや負担軽減等の他に、子供は役員を務める親の姿を見ていることや、SNSなど時代に合った方法を工夫することなどが出されました。

地域と共にあるジュニア・リーダークラブ「チェスト」

日置市ジュニア・リーダークラブ「チェスト」は、小学5年生から高校生まで幅広い年代層が参加する青少年活動ボランティア団体です。平成13年に旧伊集院町で結成され、今年で設立24年を迎えました。現在、21名の児童生徒が在籍しています。

主に子ども会活動の支援やボランティア活動を通じて、地域のリーダーとなる人材の育成を目的としています。毎年10月には、市の伝統行事である「妙円寺詣り」前の清掃活動や「妙円寺詣り大行進」の運営補助にも携わっています。これら地域行事への参加を通じて地域に貢献し、地域の方々との交流も深めています。これらの活動から会員は、異年齢との付き合い方や地域との関わり、役割を考えた行動について学んでいます。また、活動を安全に進めるための危険予知トレーニングにも力を入れています。

今後も子ども会および地域の方々と共にあるジュニア・リーダークラブであることを大切にし、一人一人が自己成長につながるよう努めてまいります。



妙円寺詣り前清掃活動



妙円寺詣り大行進の給水補助

伊集院地域生活学校は昭和48年に結成され、今年で53年目になります。

活動としては、マイバック運動やゴミ減量化、食品ロス運動にいち早く取り組み、特にEM菌を活用したぼかし作りに積極的に取り組んでいます。ぼかし作りは、年8回ほど行っています。

米ぬかとEM菌、糖蜜と一緒に混ぜ合わせ、それを発砲スチロールの箱に入れ1~2か月ほど寝かせます。天気の良い日に箱から取り出し、シートに薄く広げて、十分に乾燥させ、500gずつ袋詰めにして完成です。

ぼかし作りは大変手間ひまのかかる作業ですが、生ごみにぼかしを使用することで手軽にごみを減らすことができ、このぼかしを堆肥にして使うことでEM菌が繁殖し、病害虫が減少して土壌が元気になります。

また、ぼかし団子を川などに投げ込むと水質が浄化され、プールに投入すると藻の発生を抑える効果もあります。

中央公民館では生活学校の活動拠点として、このぼかしを1袋200円で販売しています。使用されている方の中にはリピーターも多く、

「これがないと困るんだよ」という声が大変励みになります。私たちの取組が、環境問題や安心安全な地域づくりにつながっていくことを信じて、今後も「EMぼかし」の普及に努めていきたいと思ひます。



わが町から 三島村、二十歳のつどい～はじめの一步～

三島村では、令和8年1月10日(土)三島村役場議場にて「二十歳のつどい(式典)」および「村の二十歳、はじめの一步(祝賀会)」を開催し、今年度は3名が参加しました。参加者は義務教育学校となってから初めての卒業生で、式典では二十歳を迎えた今の気持ちやこれまで温かく見守り、支えてくれた家族や地域の方々への感謝、これからの目標についてそれぞれが笑顔で語りました。

式典や祝賀会の様子は各地区に中継され、画面越しに島の方々と声を掛け合う場面もあり、会場には

自然と笑顔が広がっていました。祝賀会の最後には参加者によるジャンベ演奏が披露され、力強く心地よい音色が響くと手拍子が起こり、会場は一体感に包まれました。

島で育ち、島の人に見守られて大人への一步を踏み出す、三島村らしい心温まる二十歳の集いとなりました。



わが町から ~トカラ列島有人7島を走る

「イーヤーサーサー!」

子供たちの元気なエイサーの掛け声が港に響きます。毎年10月、十島村では「トカラ列島島めぐりマラソン大会」が開催されます。「七島巡りツアー」や「ボゼ祭り見学ツアー」と並ぶ、村を挙げての名物行事です。トカラ列島の有人七島をまたぐ珍しいマラソンということもあり、全国各地からランナーが参加します。

マラソン大会の翌日、鹿児島本港へ向かう帰りのフェリーが各島に寄港すると、出場者を島ごとに子供たちが見送ります。見送り方はさまざま、その光景を楽しみにしている方々も多いようです。

口之島では、エイサーの演舞で見送る習慣が代々受け継がれており、毎週月曜日に練習した成果を、元気

な掛け声とともに一生懸命披露します。演舞が終わるとたくさんの拍手が起こり、「ありがとう!」「また来年も来るよ!」といった感謝や再会を誓う言葉が交わされます。子供たちの表情は達成感に満ちています。

他の島ではスチールドラムやソーラン節など、まさに「七島七様」のおもてなしが見られます。

このように、十島を訪れる人々の心を温かくする「おもてなし」の精神が、各島の子供たちにさまざまな形で受け継がれていることは、十島村の素晴らしい伝統であり大きな魅力の一つです。



継承するいちき串木野市の郷土芸能

本市には国指定の七夕踊や県指定のガウングウン祭、太郎太郎祭など14の郷土芸能があります。それぞれの郷土芸能には保存会や伝承会があり、伝統行事を守るために様々な工夫を凝らしながら活動しています。今回は、これらの団体が行っている取組や、次世代への継承に向けた学校や社会教育課の活動についてご紹介します。

《郷土芸能の工夫した取組》

七夕踊	例年8月上旬に開催していましたが、真夏の暑さによる影響を考慮して、昨年は10月5日に開催しました。伝承会の方々が中心となり唄と太鼓を奉納しました。また8月2日に開催されたサマーフェスタに出演、PR活動をしました。
祇園祭	山車の中に入る女形の弾き手（小学生）や山車の引き手を地域の他公民館に拡大、存続に向け人員確保をしています。
虫追踊	毎年秋分の日に実施。20年ほど前から市来農芸高校の生徒が踊り手となって参加、存続に向けて重要な役割を果たしています。保存会の方は、生徒の送り迎えなどの支援をしています。
ガウングウン祭	昨年度から串木野高校の生徒が祭りの日に出店、ガウングウン祭にちなんだクッキーを販売し、売り出すと即完売になるほど大変好評でした。
川上棒踊	地域を中心に活動していましたが、川上小学校の児童が棒踊りを継承、地域の方が指導者となり運動会や市子ども会大会等で披露しています。



郷土芸能について学んでいます。七夕踊伝承会、虫追踊保存会の会員や社会教育課職員が歴史や道具等の説明、伝統行事を受け継ぐ思いなどを熱心に話されました。

～祇園祭の児童の感想～

- 祇園祭についてほとんど知らなかったが、今回の話を聞いて地域の伝統芸能や祇園祭について興味が出てきた。
- 200年前のお祭りだと知ってびっくりした。
- 山車には色々な秘密があることを初めて知った。
- お祭りに参加した時、最初にお祓いをするのは何でだろうと思っていたが、ちゃんと意味があることが分かってうれしかった。

《社会教育課の取組》 【郷土芸能保存団体等情報交換会】

11月12日（水）、市内の14団体からなる郷土芸能保存会のメンバーが一堂に会し、各団体が抱える課題や今後の展望について協議を行いました。参加者はそれぞれの団体の現状を報告しながら、次世代への継承方法について熱心な意見交換を行いました。



～主な意見～

- 小学生に太鼓を触ったり叩いたり実体験する活動を取り入れ、興味を持ってもらう。
- 小・中学生と交流する場が必要である。
- 文化祭や生涯学習大会等で披露することで市民に知ってもらう機会を増やす。
- やらされ感をなくすことが必要、祭りの面白さを感じてもらえるような取組が必要である。
- 郷土芸能を学校の授業に取り入れてほしい。学校で郷土芸能クラブ等があればいいのではないか。
- テレビや新聞等で広報することが必要である。

《学校の取組》 【郷土芸能について学ぶ学習】



市来小学校5年生では、本年度から総合的な学習の時間に「市来に受け継がれるもの」というテーマで

社会教育課では、今後も各団体や学校と連携・協力しながら継承に向けた取組の推進を図っていきます。

始良市の文化財を巡る ～史跡整備手法の視点から～ 日置地区文化財担当者等研修会

本研修会を11月18日（火）に実施し、今回は、始良市の文化財を巡りました。

始良市歴史民俗資料館および古帖佐焼宇都窯跡（県指定文化財）では下鶴弘館長から、森山家住宅土蔵・主屋・旧作業場（国登録有形文化財）では始良市教育委員会の担当者から、それぞれ史跡整備のポイントや保存・活用に関する具体的な手法について説明を受けました。持続可能な形で保存・活用していくことの重要性が改めて確認されました。

保存と活用のための適切な整備手法について学ぶことができ、有意義な研修となりました。



花園寺跡公園



古帖佐焼宇都窯跡



森山家住宅土蔵

編集後記

管内では四月より四中学校が再編し、（新）串木野中学校がスタートします。学校の再編は通学や地域の拠点を止めつつ、互いに支え合う仕組みをどう創るかを考えるきっかけにしたものです。（事務局 田中）